

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 名古屋市立若水中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
所在地 〒 464-0071 愛知県名古屋市千種区若水二丁目6番1号
E-mail wakamizu-j@nagoya-c.ed.jp
Website www.wakamizu-j.nagoya-c.ed.jp/
幼児児童生徒数 男子 163名 女子 155名 合計 318名
幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「チャレンジ若水」を学校理念(※もしくは活動テーマ)として、ESDを持続可能な社会を形成する市民の育成と捉え、ESDの実践を通して主体的に社会と関わる力の育成を目標とした。

具体的には、国際理解教育、福祉教育、キャリア教育を柱に、①異文化交流に係わる活動、②南北格差を解消するための消費と生産に係わる教育、③福祉に係わる学習、④職業理解に係わる教育を行った。

① 異文化交流に係わる活動

校外学習として、野外民族博物館に行き海外の民族衣装を着るなど異文化に触れた。このようにして、文化の多様性を理解した上で、外国人の方を講師に招いて講師の出身国の話を聞いたり、民芸品を見せていただいたり、一緒に踊りを歌ったりして、交流をした。事前の調べ学習と当日の交流により、それぞれの国の文化や習慣の違いを知り、それぞれのよさを理解して、互いに尊重していくことが大切であることに気付くことができた。

② 南北問題を解消するための消費と生産に係わる教育

フェアトレード実践者を講師に招いて、「チョコレートの来た道」を題材に南北格差、児童労働について授業をした。チョコレートの生産国と消費国の違いをグループで考えて南北問題に気付かせた上で、貧しい国を中心とした児童労働の実態について解説した。そして、貧困の連鎖を断ち切る一つの手だてとしてのフェアトレードについて知り、持続可能な社会を形成していくために自分たちができることを考えさせた。

③ 福祉に係わる学習

手話サークルの方々を講師として招き、まず、学年全体で聴覚障害者の日常について話を聞いた後に、代表生徒が聴覚障害の方と実際にコミュニケーションをとる体験をしました。身振りや口話、空書などを交えながら相手に伝える大変さを実感していました。その後、各教室に分かれて手話体験を行いました。健常者と障害のある方をつなげるボランティアの方の大切さにも気付き、自分たちは社会に出てどのような役割を果たしていけるかについて考えていくきっかけとなりました。

④ 職業理解に係わる教育

職業調べを行うとともに、ハローワークと連携して、職業興味検査「ジョブ・キャンパス」を行った上で、「働くこと」についての講演会を実施した。そして、職場体験学習を行い、礼儀の大切さ、妥協は許されない職業人としてのプロ意識、チームワークの大切さなどを実感した。



① の写真 (キャプション)



② の写真 (キャプション)



③ の写真 (キャプション)



④ の写真 (キャプション)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input checked="" type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input checked="" type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

ジョブ・キャンパス https://www.seikatsu.city.nagoya.jp/plaza/kyouzai/detail/1
--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の時間を中心として、探究的、活動的な学習を行っている。実際に校外に出かけたり、外部講師を活用したりする中で、積極的に学習対象に関わり学んでいく姿勢を育んでいる。こうした活動をきっかけにしながら、各教科学習や道徳の授業においてもグループ学習や話し合い活動を積極的に採り入れたアクティブラーニング型の授業を行っている。総合的な学習の時間の活動に合わせた道徳の内容項目を扱い、活動に合わせて考えを深め、心を醸成していくようにしている。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

総合的な学習の時間のテーマを各学年で固定し、継続的に活動を行えるようにしている。また、市民経済局や社会福祉協議会などと連携を取りながら、講師を招いているので様々な面で情報提供や協力を得られ、継続的に活動に取り組める体制となっている。校内では、総合的な学習の時間担当、道徳推進教員とESD推進担当が連携をとり、組織的に取り組めるようにしている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

中間アンケートと年度末アンケートの2回、内部及び外部の評価を取っている。本校の活動テーマに係わる成果について、特活・行事面と学習面の両面から達成度を評価していただいている。両面とも高い評価をいただいているが、学習面に関しては、保護者が状況を把握しにくい点もあり、特活・行事面に比べると評価が低い。アクティブ・ラーニング型の授業をより推進していくとともに、その活動をどのように保護者に伝えていくかが課題である。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

まずは、保護者、地域に学校だより、ホームページを通して活動を発信している。また、今年度は道徳と関連させたフェアトレードの学習に関する取り組みを市の事業の一環として行い、テレビや新聞で取り上げていただいた。他校からの問い合わせや別の会への情報提供の依頼などがあり、広く活動を伝えていくことができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

社会福祉協議会を通してボランティア団体と協働したり、国際センターを利用して外部講師との交流の場をつくったり、市民経済局と連携して消費教育を行ったりした。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

愛知県ユネスコスクール指導者研修会に参加し、各校の取り組みについて知るとともに、今後の交流に向けての参考とした。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

様々な人と関わる機会をもち、対話したり、活動したりすることによって、生徒は様々な立場からものを考えることができるようになり、視野が広がっている。こうした様子を見て、教員も特別な活動だけでなく、日頃の授業の中でも、生徒が自ら課題を見つけ、仲間と協働し、よりよい解決をしていくことができるようにしようと、アクティブラーニング型の授業を採り入れるようになっている。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

国際理解教育として、リトルワールドで異文化を実感する活動、国際交流会で外国の方と接し、互いの文化を尊重する態度を育む活動を行う。フェアトレードについての学習も引き続き行い、世界の現状を知るとともに自分たちのできることを考える態度を育てる。また、職業理解学習を行い、社会とどのように関わっていかなければいけないかを考えていけるようにする。そして、3年生では元外交官を招いて、「グローバル化時代の人材」をテーマに講演をしていただき、これからの社会を生きていくために自分たちがどのような力を付けなければいけないか、そしてそうした力を社会のためにどう生かしていけばよいかを考えられるようにしていく。